

然と綴つてゐた、しかし吹流しは其の後僑民巡捕によつて引下げられた。同時に自由支那全土の支那人は反汪精衛運動を開始し、叛逆者汪夫蕪の像を建てた。汪僑僑政府の成立を批評して上海のアメリカ人所有紙「中美日報」は、之は日本が武力によつて支那を征服し得ざることを示すもので、支那事態を解決する爲に日本は政治的攻勢を激化してゐるが、僑僑達は支那民衆の支持を受けてゐない以上、汪精衛及日本軍國主義者達は共に失敗する運命にあると述べてゐる。

(ロ)臺灣革命團體代表 H S I E H N A N K W A N G は重慶よりラヂオ放送を爲し、臺灣の經驗から判断して日本侵入軍及僑僑汪精衛達は失敗するに定まつてゐる、臺灣は日本の侵入に對して七十年間戦つた、故に支那民衆がどうして七十年間戦へないことがあらうか、と反問した。

内閣情報部四・五 情報第三號

ジャバ紙も新政府に遠吠
— 同盟來電 — 不發表 —
パタヴィア二日安藤特派員

支那新政權成立に對し論評を控へ勝ちであつた蘭字紙も米國の汪政權不承認聲明に追隨するもの、如く漸次新政府反對の立場を明らかにし一日附テ。ジャヴァ。ボーテ紙は左の如き概要の論説を掲げてゐる。

『支那新政府は漸く成立したがその顔振れは貧弱で大の野心家たる汪精衛以外日本の傀儡たる新政府の職責を引受けんとする有力者の顔は見當らない、日本のいふ新秩序建設を目的とする新政府設立の重大式典も不思議に静寂裡に経過したがこの静寂は汪精衛政權が將來極めて望み薄なる印象を與へるものである汪精衛は支那が危急存亡の際蔣政府より脱出した卑怯者で日本の銃劍の護衛下に孫文の遺訓を讀んで優越を感じる男であるから國家觀念を多少とも有する支那人は何れも彼を侮蔑するであらう汪政府の出現は外國の不滿を増大せしめる以外舊事態に何等の變化を齎らさぬであらう然し汪はやがて外國租界の返還を要求するやも知れず又日本は何等かの口實を設けて汪政府をして外國人の權益を剝奪せしめ抑壓せしめるやも知れぬから新政府の成行は細心の注意を以つて監視する必要がある』

254



内閣情報部四・五 情報第四號

印度紙新政府を中傷
同盟來電一不發表

ボンベ二日芦田特派員發

南京新中央政府の成立に關しタイムス・オヴ・インディア紙は新政府の前途多難との次の如き中傷記事を掲げてゐる、

「新たな事業に乘出した汪精衛は今後幾多の困難を経験するであらう汪を裏切者に見做してゐる重慶政府側からの反對は論外としても汪は日本内部に於ける政府と軍部との意見の對立を考慮に入れてかゝらねばならない、一方諸外國は新政府を承認しなうもない、過般の日英協會席上に於けるクレイギー大使の演説を以つて英國が新政府と事務的接衝を開始する下準備であるこの解釋は全然誤解に過ぎず、英國は再三の極東政策の不變なることを強調してゐる英國としては米國の信頼を回復する爲今一度對日支事變態度を再闡明すべきであらう、最近益々廣汎に兩國間の協力を進め來つた英米兩國の極東政策が、今にして相互の誤解から蹉跌を來す様なことにならばこれは實に不幸といふべきである。」

秘
内閣情報部四・五 情報第四號
印度紙新政府を中傷
同盟來電一不發表
ボンベ二日芦田特派員發
南京新中央政府の成立に關しタイムス・オヴ・インディア紙は新政府の前途多難との次の如き中傷記事を掲げてゐる、